

建設通信新聞

九州測量協会 地位向上へ一層努力 60周年記念式典を開催

九州測量協会は、今年8月で創立60周年を迎える。6月末時点での会員数は、



正会員1012人、準会員117人、特別会員275社。山本旗年支部長の主導の下、測量・地理空間情報分野の調査研究と普及発達、社会的地位の向上などに取り組んでいる。7日には、創立60周年を記念する式典が福岡市内のホテルで開かれた。写真。

互の親和、社会的な地位向上などに向けて一層努力したい」とあいさつした。

来賓として出席した森戸義貴九州地方整備局長、桶屋敏行国土地理院九州地方測量部長、本部の清水英範会長が祝辞を述べた。森戸局長は「皆さんの仕事をいかに効率的に進めてもらうかが重要。そのために、履行期間の平準化など効率的な予算執行に努めた」と、清水会長は「九州は、毎年のように自然災害が発生しており、まだまだ社会基盤整備が必要だ。公共事業の最上流を担う最も重要なエンジニア集団としてますますの活躍を期待している」と述べた。

この後、清水会長による記念講演会「日本測量協会と学会活動」や記念祝賀会があった。

大分技術開発ら、3者を表彰

公共測量品質
管理優秀賞

日本測量協会九州支部技術センター(後藤勝広センター長)は7日、福岡市内のホテルで九州地区の2023年公



共測量品質管理優秀賞の表彰式を開いた。写真。基準点部門で選ばれた大分技術開発(大分県日田市)と大和コンサル(福岡県久留米市)、地図部門の朝日航空西日本空情支社福岡支店(福岡市)の3者に同協会の清水英範会長が記念の盾を手渡した。

表彰制度は、05年4月の「公共工事の品質確保の促進に関する法律(品確法)」の施行を機に創設し、今回で19回目を迎える。九州地区では、大分技術開発と大和コンサルが初、朝日航空が2回目の受賞となった。

清水会長は「防災・減災、国土強靱化やDX(デジタルトランスフォーメーション)などの重要性が認識され、測量・地理空間情報分野への期待とニーズが高まっている。今後も社会の期待に応え、この分野の発展に一層貢献してほしい」とあいさつした。

大分技術開発の佐藤雅治社長は「社員が一丸となって努力してきたことが今回の評価につながった。これが2度、3度と続くよう、次世代への技術の継承や最先端技術の導入など、さらなる高品質を目指したい」と語った。